昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成24年4月1日発行（毎月1日発行）第62巻 第4号
ISSN 0913-9850

2012 Vol.62
4月号

MONTHLY かもつ

第26回エコレールマーク運営・審査委員会開催

環境に配慮した工場そのものが「カゴメの商品」
カゴメ株式会社 富士見工場

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

Index

表2 土木・建築遺産

1 第26回エコレールマーク運営・審査委員会開催
2 北九州貨物ターミナル駅開業10周年記念祭に出展
4 平成23年度 本部合同委員会開催
6 平成23年度 本部委員会合同企業見学会開催
7 平成23年度 幹事長・事務局長会議を開催
8 支部だより
鉄道貨物協会セミナー開催　仙台支部
幹事会及び利用促進会議を開催　静岡支部
利用促進会議を開催　四国支部
11 お国自慢　全国花火競技大会

12 FREIGHT EYE

14 会員企業紹介　株式会社京三製作所
15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト　カゴメ株式会社 富士見工場
20 貨物駅の仕事ガイド　フロント業務 隅田川駅
22 SPOTLIGHT　女川町の災害廃棄物輸送開始
24 トピックス　GW期のコンテナ列車運転計画
表3 「FREIGHT EYE」撮影メモ／JR貨物輸送概況

【訂正】前3月号に誤りがありましたので訂正いたします。
●P4小集団活動全社発表会開催頁
発表テーマ「機関車・運転士運用図表の作成時間の短縮」とあるは「安全・安定輸送に向けて　コンテナの封印環付け忘れカム不掛りをなくそう」が正当です。訂正してお詫び申しあげます。

第26回

エコレールマーク運営・審査委員会開催

公益社団法人鉄道貨物協会内において、平成24年3月2日(金)に第26回「エコレールマーク運営・審査委員会」(委員長 苦瀬博仁 東京海洋大学理事・副学長)が開催され、以下の内容が認定されました。

今回の開催結果により現在までの認定は、取組企業75社、商品136品目、協賛企業が15社の226件となりました。

公益社団法人 鉄道貨物協会

認定の審議をされた委員会の様子

新しく認定された企業と商品

- **三菱電機株式会社**
  「三菱ルームエアコン霧ヶ峰」
  「三菱冷蔵庫」

- **フマキラー株式会社**
  「おすだけベープ」
  「どこでもベープ」
  「フマキラー蚊とり線香」
  「フマキラーAダブルジェット」
  「虫よけバリア」
  「フマキラーアルコール除菌」

新しく認定された商品

- **MCG遮断機**
  (ME8F-B形・MA形・MDWS形・MAWS形・TD6S形・TA6S形・DE8F形)
  (株式会社 京三製作所)

新しく認定された協賛企業

神奈川臨海鉄道株式会社

CO_2などの温室効果ガス排出量削減のために環境問題に取り組まれている企業の方々のご応募をお待ちしております。

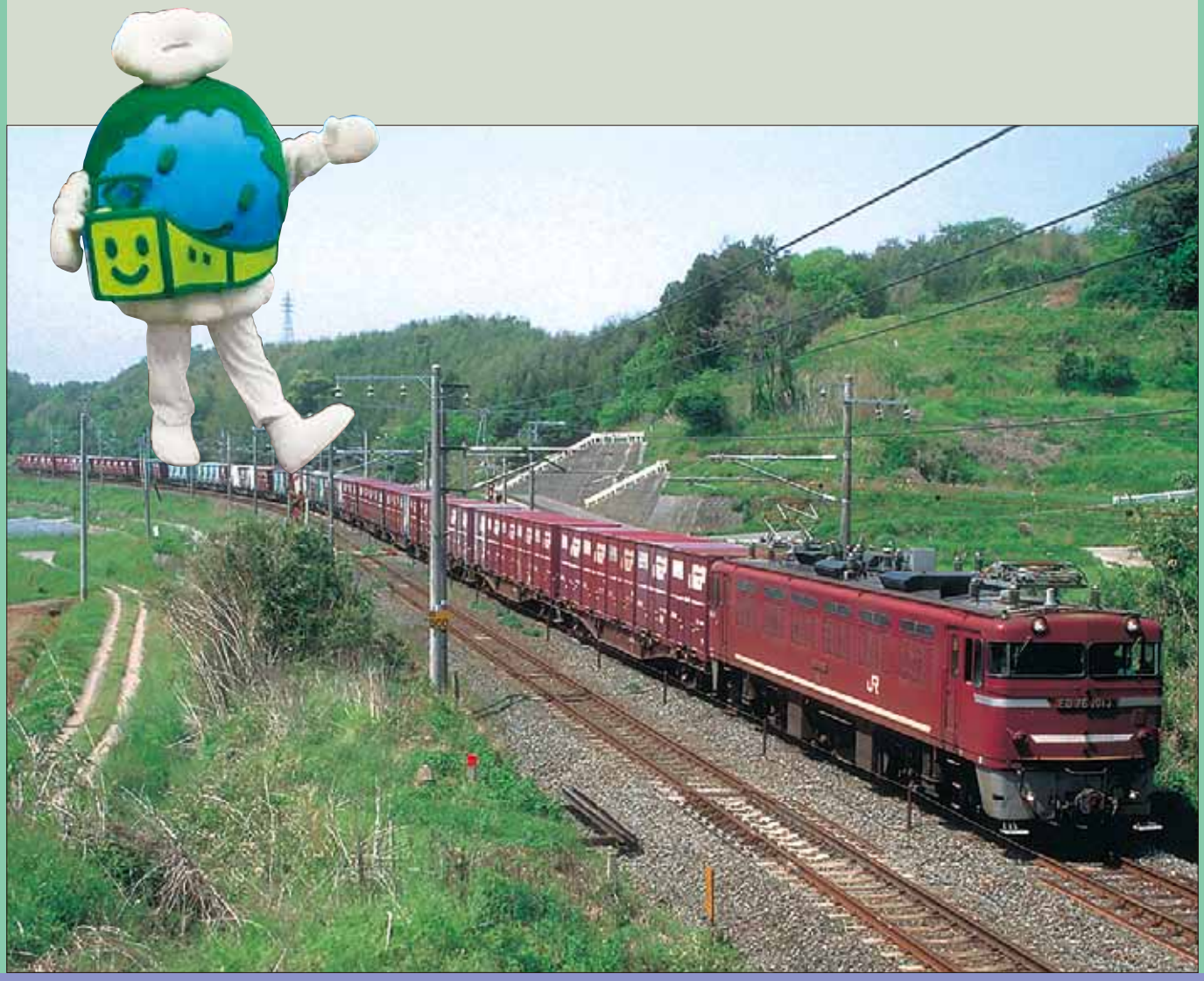
エコレールマーク認知度向上を目指し

北九州貨物ターミナル駅開業10周年記念祭に出展

北九州貨物ターミナル駅記念祭にエコレールマークのブースを設置

北九州貨物ターミナル駅の開業10周年を記念して、3月4日に「北九州貨物ターミナル駅開業10周年記念祭」が開催されました。当日は駅構内の一部を一般開放し、物品販売の他、ミニSLの運転、機関車展示、ブラスバンド演奏など様々な催しが行われました。当日は、あいにくの雨にもかかわらず、地域住民の方や鉄道ファンなど、多くのお客様が来場され大盛況となりました。

鉄道貨物協会九州支部は、31ftコンテナ内部にブースを設置し、エコレールマーク認定商品を展示した他、子供向けのパズルコーナーを出展しました。エコレールマークちゃんの着ぐるみマスコットも登場し、多くの子供たちが写真撮影などを楽しんでいました。



大人気でしたエコレールマークちゃん。

地球環境に優しい鉄道貨物輸送を目指した記念祭に九州支部も参加

九州支部

●日時／平成24年3月4日[日]
●場所／JR貨物北九州貨物ターミナル駅

駅構内に作られた記念祭のゲート、
地元住民の方々も開放された貨物駅に大喜びでした。

31ftコンテナを利用したエコレールマークの展示場、
たくさんの来場者で賑やかでした。

子供たちに大人気のエコレールマークパズル!!
完成するとマークを自然とおぼえちゃうぞ。

コンテナ内に展示されたエコレールマークの認定商品、
たくさんの認定商品にお客さんも興味津々でした。

平成23年度
本部合同委員会
開催

●日時／平成24年3月5日［月］
●場所／JR貨物本社 会議室

中央･中島利用促進委員会委員長　右･犬飼輸送品質向上委員会委員長

合同でおこなわれた委員会の様子

本部合同委員会

私ども鉄道貨物協会は、昨年11月1日に「公益社団法人鉄道貨物協会」として新たにスタートいたしました。

協会の基本的な活動の一つに、本部委員会活動がありますが、その本部委員会では国民の生活に不可欠な物資の安定供給と地球環境の保全の実現を図るため、貨物輸送のうち安定性、安全性、環境性能が優れている鉄道貨物輸送に関して、よりその特性や長所を生かすことが出来るように調査･研究を行っております。

平成23年度の本部委員会は、荷主企業、利用運送事業者、鉄道事業者と有識者を基軸に、本部委員会として「利用促進委員会」、「輸送品質向上委員会」の二つの委員会を設置し、委員会審議テーマに関しては、荷主企業会員の声を反映させるなかで、以下の4テーマを選定し委員会活動を進めております。

今年度の委員会活動は、2月に開催された第8回委員会をもって実質審議を終了しておりますが、「利用促進委員会」並びに「輸送品質向上委員会」の平成23年度の取り組み成果を相互に発表し、情報の共有化を図るため、平成24年3月5日（月）に「本部合同委員会」を以下の通り、開催いたしました。

利用促進委員会

❶メインテーマ

『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』

鉄道貨物輸送の利用促進を図るためには、情報システムの高度化が不可欠です。IT化の進展にともない、以前に比べると提供される情報は質･量とも格段に向上しており、輸送品質の向上や輸送障害時における対応などに大きく寄与しています。

しかし、その一方で、荷主企業からは、例えば輸送障害発生時に提供される情報等に対しては未だ不満の声も聞かれております。また、鉄道貨物輸送を利用されている荷主企業等においては、提供されうる情報に対する認知度が未だ浸透していないのが実情のようであります。

そこで、本調査では、鉄道貨物輸送に関してどのような情報が提供されているのか、或いは荷主企業がどのような情報を欲しているのかなどについて、文献調査および利用運送事業者、荷主企業、鉄道事業者等へのヒアリング調査を行い鉄道貨物輸送に関する情報提供の現状把握を行うとともに、これにかかる課題抽出、フィージビリティ（実現可能性）等について調査研究し一定の提案を行うことといたしました。

平成23年度メインテーマの活動状況は、下記の通りです。

（1）第1回利用促進委員会 H23.4.22（於:協会本部）
同テーマに対する企画詳細（目的、概要、項目、方法、スケジュール等）に関する審議。

（2）第2回利用促進委員会 H23.5.25（於:隅田川駅会議室）
鉄道貨物情報システムの現状を認識するため日本貨物鉄道（株）I-TEMセンターを訪問し、上記会議室で開催。

（3）第3回利用促進委員会 H23.7.13（於:協会本部）
利用運送事業者の鉄道貨物情報システムの現状認識を図るため、日本通運（株）佐々木課長、松原課長、長和様をお招きし、同社におけるシステム（鉄道コンテナNAVI）の説明を受けたのち、質疑応答を行う。

（4）第4回利用促進委員会 H23.9.14（於:協会本部）
利用運送事業者の鉄道貨物情報システムの現状認識を図るため、全国通運（株）系利用運送事業者が展開されている鉄道Webサービス利用促進協議会『鉄道Webサービス』の概要について、講師として同協議会事務局ヤマト運輸（株）上野課長（現、通運支店長）、久米田係長（現、通運広域営業支店長）の説明を受けたのち、質疑応答を行う。

（5）第5回利用促進委員会 H23.11.16（於:協会本部）
ヒアリング等の中間報告に関する審議。（11月11日現在、荷主企業9社、利用運送事業者13社分のヒアリング中間報告）

（6）第6回利用促進委員会 H23.12.7（於:協会本部）
鉄道貨物事業者並びに利用運送事業者における鉄道貨物情報システムへの課題要望点等に関する整理等の審議。

（7）第7回利用促進委員会 H24.1.11（於:協会本部）
望ましい鉄道貨物情報システムのあり方およびフィージビリティに向けての審議。

（8）第8回利用促進委員会 H24.2.15（於:協会本部）
最終項の「まとめ」と「報告書（案）」についての審議。

❷サブテーマ

『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』

コンテナ輸送技術の向上や車両総重量規制の緩和などを受けて、重量物を出荷する一部の荷主企業等から輸送効率向上のため12フィートコンテナの総重量の緩和（増トン）を求める声が聞かれております。

しかしながら、12フィートコンテナの総重量を緩和（増トン）するためには、コンテナ自体にかかわる技術面の課題に加えて鉄道輸送上あるいは集配面におけるハード面のほか、各種規制等ソフト面などにおいても対応すべき課題があるのではないかと推測されます。

そこで、当委員会でのサブテーマの調査につきましては、技術、規制、輸送品質など多角的な側面から課題の整理を行うことにより、12フィートコンテナの総重量の緩和（増トン）の可能性について調査研究を行うことといたしました。

当テーマの調査研究の具体的展開については、下記の通りといたしました。

● 調査概要…現状における12フィートコンテナの増トンの可能性、ならびにそのための課題についての調査検討

● 調査項目…A.輸送技術の発展と技術面の課題の整理
B.各種規制の整理
C.輸送品質等の課題の整理
D.総重量の緩和の可能性についての検討

● 調査方法…文献調査及び荷主企業、鉄道事業者、利用運送事業者、コンテナメーカー等へのヒアリング調査他

平成23年度サブテーマの活動状況は、下記の通りです。

（1）第1回利用促進委員会 H23.4.22（於:協会本部）
同テーマに対する企画詳細（目的、概要、項目、方法、スケジュール等）に関する審議。

（2）第3回利用促進委員会 H23.7.13（於:協会本部）
ヒアリングシートの設問にかかわる審議。

（3）第5回利用促進委員会 H23.11.16（於:協会本部）
12フィートコンテナの増トンに対するニーズに関するヒアリング調査結果についての審議。

（4）第6回利用促進委員会 H23.12.7（於:協会本部）
テーマ検討にあたり積載に関する制限･制約等の根拠を理解する必要があるとの観点から、鉄道事業者、利用運送事業者、コンテナ供給事業者の3方向からの考察に関する審議。

（5）第7回利用促進委員会 H24.1.11（於:協会本部）
一連の調査研究に関するまとめ部分の審議。

（6）第8回利用促進委員会 H24.2.15（於:協会本部）
報告書（案）についての審議。

❸平成24年度利用促進委員会の取り組みテーマについて

（1）メインテーマ
『鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案』

（2）サブテーマ
『利用促進に資する拠点およびインフラのあり方についての調査研究』

輸送品質向上委員会

❶メインテーマ

『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』

平成22年度において、コンテナの臭気問題の発生原因や現状の対応策を調査･研究し、臭気コンテナの運用･管理に関する提案を行いました。しかしながら、「コンテナの臭気対策」に対し、「運用･管理面の対策は提案されているものの、それを実行に移すための方策についてはまだ充分とはいえないため、来年度も続けて審議するべきではないか」との意見があり、また、汎用的に利用されるコンテナの輸送品質の一層の向上を図るためには、それらの運用･管理面の対策のみならず、コンテナの臭気や濡損、温度変化といった内部構造に起因して生ずる課題も含めて調査･研究する必要があるのではないかとの意見もありました。

そこで、平成23年度の輸送品質向上委員会では、前年度に引き続きコンテナの臭気対策の実効性ある運用･管理方策について追及しながらも、コンテナの内部構造の課題と対策にも一歩踏み込んで研究すべく、「コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案」をテーマとして設定し、調査研究と提案を行うこととしました。

平成23年度メインテーマの活動状況は、下記の通りです。

（1）第1回輸送品質向上委員会 H23.4.22（於:協会本部）
委員長･副委員長の選出および平成23年度メインテーマ内容の確認と調査目的･スケジュール等に関しての審議を行いました。

（2）第2回輸送品質向上委員会 H23.5.13（於:協会本部）
前回委員会意見を反映したアンケート調査表の修正案についての審議。

（3）第3回輸送品質向上委員会 H23.7.19（於:川崎貨物駅）
川崎貨物駅において、コンテナ検修体制の現地見学を兼ねた委員会を開催。

（4）第4回輸送品質向上委員会 H23.9.22（於:協会本部）
コンテナの機能向上に関する調査の観点からのヒアリング結果についての審議。

（5）第6回輸送品質向上委員会 H23.11.18（於:協会本部）
メインテーマ『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』報告書（案）についての審議。

（6）第7回輸送品質向上委員会 H24.1.16（於:協会本部）
前回委員会の意見を反映した報告書（修正案）についての審議。

（7）第8回輸送品質向上委員会 H24.2.17（於:協会本部）
メインテーマ『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』報告書（案）についての最終審議。

❷サブテーマ

『コンテナ輸送途上における品質管理面の課題と検証』

荷主企業では長距離（500km以上）の輸送についてトラック輸送から鉄道コンテナ輸送への転換（モーダルシフト）を推進しつつあり、モーダルシフトを実施することでCO_2削減や輸送コストの削減を実現されていますが、その一方で、輸送中の荷物事故の発生増加に頭を痛めている企業が少なくないことも事実です。

鉄道コンテナ輸送に対する社会的な要請に応えていくためには事故防止対策の確立が不可欠ですが、そのためには、輸送中に発生する振動･衝撃およびコンテナ内の温湿度を正確に把握する必要があります。また、本実験の対象ルートである日本海縦貫線（湖西線から北陸線、羽越線を経由するルート）は、東日本大震災により使用できなくなった東北本線の代替路線として注目を浴びている路線であります。ひとつの路線が使用不能となっても別ルートでの輸送がすぐに再開できたことから、鉄道輸送のライフラインとしての重要性に注目が集まりました。

本実験は、鉄道コンテナ輸送にかかる輸送環境をコンテナ内に計測器を設置しデータを収集し、その特性を明らかにすることを目的に実施するものです。なお、本実験は輸送品質向上委員会の下、鉄道コンテナ輸送中の品質という観点から実施するもので、その成果については広く公表することにより、皆さんが鉄道コンテナ輸送における品質向上に活用していくことを目的としております。

平成23年度はトラック輸送距離が比較的長い「オフレールステーション」（以下、ORSという）等を利用する貨物を対象とし、かつ日本海縦貫ルートを介しての同様の計測を実施するとともに、3年間実施してきた鉄道貨物輸送における振動等の実験調査のとりまとめも行いました。

平成23年度サブテーマの活動状況は、下記の通りです。

（1）第1回輸送品質向上委員会 H23.4.22（於:協会本部）
平成23年度企画内容の確認と調査目的･スケジュール等に関する審議。

（2）第3回輸送品質向上委員会 H23.7.19（於:川崎貨物駅）
振動実験計画の詳細について審議。

（3）第5回輸送品質向上委員会 H23.10.21（於:協会本部）
振動等の輸送実験結果（含む、報告書（案））についての審議。

❸平成24年度輸送品質向上委員会の取り組みテーマについて

（1）メインテーマ
『荷擦れ･荷崩れ対策としてのコンテナの内装及びコンテナの養生材に関する調査研究と提案』

（2）サブテーマ
『鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査』

平成23年度

本部委員会合同企業見学会開催

●日時／平成24年3月14日（水）
●場所／安全運転中央研修所
福島臨海鉄道（株）小名浜駅

安全運転中央研修所での集合写真
左は同研修所 早瀬課長代理様

平成23年度の企業見学会は、先ず午前中に、茨城県ひたちなか市にある安全運転中央研修所を訪問いたしました。

鉄道貨物輸送は、鉄道と車両による集配との組み合わせでひとつの輸送モードとなっているわけですが、本見学では利用運送事業者の車両による集配業務における運転技能研修施設や運営方法等を学ぶべく、安全運転中央研修所の訪問を企画したところです。

この安全運転中央研修所は、東京ドーム約20個分に当たる広大な敷地に、13種類のトレーニングコースやドライビング・シミュレーターなど最新の教育施設を設備しており、公道では体験できない運転上の危険限界を体験しながら、安全運転の基礎と応用について学ぶことの出来る、日本最大の研修施設となっております。

当日は、同研修所の早瀬課長代理様による施設の概要説明やDVD観賞、また展望階からの施設の全景の見学、更には、普段は経験できないフィールドの周回路を実際に走行し、その実効ある研修を体験することができました。

見学終了後には、利用運送事業者の参加者からは、「運転教育時に危機管理というものを伝える際、教育者自らが体験しているのとしていないのとでは全く違う、良い経験になりました。」と感謝の言葉をいただきました。

続いて午後からは、福島臨海鉄道株式会社本社と小名浜駅を訪問いたしました。

昨年の東日本大震災では、ここ福島県いわき市も地震・津波・原発などにより多くの被害を受けた地域であります。

こうした被害を受けたにも拘らずこの「福島臨海鉄道」においては、従業員の総力を挙げての復旧作業により本年2月1日に晴れて小名浜駅とJR泉駅間の5.4キロが全面復旧し、運転が再開されたところです。

本部委員会としても、この様に早期復興した「福島臨海鉄道」を是非見聞しようということで、震災後一年を経過したのを機に訪問を企画したものです。

福島臨海鉄道（株）河野社長様ご挨拶

当日は、ご多忙にもかかわらず、河野社長様、志賀執行役員鉄道部長様、澤田鉄道部次長様の出迎えを受け、小名浜駅の概要説明、また復興した駅構内の見学をさせていただきました。

その後、会議室にて質疑応答の場を設け、復旧に向けてのご苦労話をお聞きしたところです。

展望階より研修施設の一部を撮影

再開した小名浜駅を見学

平成23年度

幹事長・事務局長会議を開催

公益社団法人 鉄道貨物協会

挨拶された惟村総括執行役員

挨拶された梶原常務執行役員

（公社）鉄道貨物協会では、平成24年3月12日（月）、千代田区一ツ橋・如水会館において平成23年度幹事長・事務局長会議を開催しました。

来賓としてJR貨物から総括執行役員惟村正弘様、日本通運株式会社から常務執行役員梶原景博様をお招きして開催されました。

- 開催日時／平成24年3月12日（月） 15時より
- 場　　所／如水会館

● 次　第

1. 公益社団法人鉄道貨物協会
   理事長　米本亮一
2. 来賓挨拶
   日本貨物鉄道株式会社
   総括執行役員　惟村正弘
   日本通運株式会社
   常務執行役員　梶原景博

● 議　題

（1）平成23年度事業報告について
（2）平成24年事業計画（案）について
（3）当面の諸問題について
（4）その他
- 鉄道事業者への質問事項

仙台地方通運業連盟と共催

鉄道貨物協会セミナー開催

～震災からの復活・元気再生に向けて～

挨拶をされた仙台支部横田幹事長

去る2月23日（木）、仙台支部では仙台地方通運業連盟と共同で公益社団法人創立を記念したセミナーをホテルメトロポリタン仙台において開催しました。セミナーは会員企業を中心に約150名にお集まりいただき、満席となりました。JR貨物から真貝東北支社長が、協会本部の米本理事長、全国通運連盟の安原理事長が東京から駆けつけました。

仙台支部

●日時／平成24年2月23日［木］
●場所／ホテルメトロポリタン仙台

通信網被災と通信確保と題した講演をされた南川夏雄氏

セミナーは、テーマを東日本大震災からの復旧･復興･絆とし、第１部では東日本電信電話（株）宮城支店長南川夏雄氏より「東日本大震災による通信網被災の状況と災害時の通信確保」と題した講演をいただきました。震災時に通信網の現場で何が起き、どう対応したか、今後どうしていくか、最後は通信インフラを守り抜く使命感、DNA、人であるという内容は物流インフラを担う多くの出席者の共感をよびました。

演奏をされた渋谷さんと松山さん

米本理事長と真貝支社長が参加したサプライズ演奏

第2部では、「被災地にピアノを届ける会」の活動に取り組んでいるヴァイオリニストの渋谷由美子氏とピアニストの松山裕美子氏による「笑顔がよみがえりますように」と題したリサイタルを開催、クラシックから歌謡曲まで9曲の美しい調べが聴衆を魅了した後に米本理事長と真貝支社長が登壇、「荒城の月」演奏というサプライズで大変盛り上がりました。

続いて、渋谷氏の取組みに賛同した米本理事長より義援金の贈呈が行われました。

米本理事長より渋谷氏へ義援金の贈呈

懇親会では、特別ゲストの新日本製鐵（株）宮崎東北支店長、仙台で活躍するソプラノ歌手の山内様をご紹介した後、安原理事長の乾杯の発声で懇談へと移りました。その後和やかな雰囲気の中で懇談が進むうち予定した時間となり、郡山運送（株）永山社長の手締めでお開きとなりました。

平成23年度

幹事会及び利用促進会議を開催

静岡支部

●日時／平成24年2月24日[金]
●場所／ホテルシティオ静岡

静岡支部では、平成24年2月24日（金）に幹事会及び利用促進会議を開催しました。幹事会では事務局より「平成24年度事業計画（案）、収支予算（案）、支部表彰制度（案）」の説明を行い、原案通り承認を頂きました。

利用促進会議では東海支社（営業）の寺村担当課長より「社会インフラとして地域に貢献する鉄道貨物輸送」と「平成二十五年ダイヤ改正の概要」をテーマにモーダルシフトの取組、東日本大震災の被害及び被災地支援の取組や異常時の情報提供、ダイヤ改正の概要についてご説明をして頂き、会議は終了しました。

会議では多数の出席者が説明に耳を傾けていました

ご説明をして頂いた寺村担当課長

平成23年度

利用促進会議を開催

四国支部

●日時／平成24年2月22日[水]
●場所／義山荘

四国支部では、平成24年2月22日（水）義山荘において、利用促進会議を開催しました。

初めに、竹津幹事長、JR貨物関西支社営業部山田部長、JR貨物四国支店織田支店長のご挨拶に続き、以下の通り議事を進行しました。

1. JR貨物の最近の輸送実績
2. 四国運輸局出前講座「物流行政の動向とグリーン物流の推進について」
3. 平成24年3月ダイヤ改正ご案内
4. エコレールマークについて

出席者27名の中、会員からの質問、要望については、JR貨物関西支社、四国支店よりご回答し、約2時間半にわたる熱い議論が交わされました。

熱い議論が交わされた会議でした

熱心に聞きいる出席者のみなさん

お国自慢

華やかに夜空を焦がす大輪の花

全国花火競技大会

日本の伝統とその技術の高さを誇る「大曲の花火」は、全国から選抜された一流の花火師達が競う日本で最も権威のある大会です。

大会には部門が二つあり、一つは競技部門で全国でも此処大曲だけの「昼花火の部」と「夜花火（創造花火）の部」の2部構成となっています。

もう一つは仕掛け花火の部門で、大会オープニングの「ナイアガラ付大スターマイン」、毎回テーマを設定し趣向を凝らした「大会提供花火」、大会フィナーレの「十号割物30連発大スターマイン」があり、「大会提供花火」は数の多さで観るものを圧倒し、「十号割物30連発大スターマイン」は瞬きをすることも忘れさせ、体が震えるほどの大感動を与えてくれます。読者のみなさんも是非一度来て感動を味わってください。

担当：秋田支部（佐川育子）

写真提供：大仙市

株式会社 京三製作所

本社　〒230-0031 横浜市鶴見区平安町2-29-1　TEL(045)501-1261
http://www.kyosan.co.jp

安全と安心を創造し、進化させていく信頼の企業
“信頼度ナンバーワン KYOSAN”

本社工場 正面エントランス

運行管理装置(TTC)

当社は、1917年の創業以来、安全と信頼をキーワードに「鉄道信号システム」「交通管理システム」「電力変換システム」をはじめ、時代と環境に適応する「ホーム安全設備」、グローバル市場に発信する「海外事業」など、事業領域を拡大し一歩先をゆく先進のモノづくりを提供しています。

なかでもホーム安全設備においては、近年、注目されているプラットホームからの転落事故防止に効果的な「可動式ホーム柵」や当社独自技術の「可動ステップ」の普及に貢献するとともに、駅設備のバリアフリー化の実現に積極的に取り組んでいます。

事業そのものを通じて社会の公共性・安全性に深く関わる当社は、たゆまぬ先進の技術開発により「安全性・信頼性」ならびに「人と環境への優しさ」を実現し、「交通とライフラインの安全確保」そして「社会の快適性向上」に寄与することで世の中に貢献することが使命と考えています。

現在、当社は2017年に迎える創立100周年を一つの区切りと認識し、将来に向けてのビジョン「KYOSAN New Vision-100」の実現に向かって、さらなる挑戦を続け、経営規範の適正化と社会への貢献、地球環境保護への配慮を常に意識しながら「誠実さと高い倫理観」「強い責任感と当事者意識」を行動規範とし、また、「アイディアとチャレンジ」「スピードと継続性」を行動指針として事業の充実とその成果拡大に努めています。

今後も先進の技術力と高い品質力を通じてお客様の満足と信頼を確保し、技術開発力にさらに磨きをかけながら着実に前進を続けてまいります。

当社製品の一部

LED式交通信号灯器

可動式ホーム柵

ATS車上装置

D級RFジェネレーター

モーダルシフト

当社では2009年より、環境対策ならびに新規輸送方法への取り組みとして、モーダルシフトの導入を積極的に推進しており、九州新幹線向け信号保安装置をはじめJR貨物殿 隅田川駅継電連動装置など、各鉄道会社様向けの製品輸送について可能な限り鉄道コンテナ輸送への切替えを進めています。また、このたび当社の製品輸送モーダルシフト推進の取り組みが評価され、先月(3月)に当社の踏切遮断機(MCG遮断機)が『エコレールマーク取組商品』として認定されました。

今後とも製品輸送における鉄道コンテナ輸送の拡大を目ざしてまいります。

エコレールマークに認定された
踏切遮断機 MCG-ME8F-B

コンテナに積み込まれる当社製品

平成24年3月分実施項目

本　部

3月　2日(金)／エコレールマーク運営･審査委員会
（協会会議室）
3月　5日(月)／本部合同委員会(協会会議室)
3月　7日(水)／編集会議(協会会議室)
4月号編集進捗状況
5月号企画案作成

3月12日(月)／幹事長･事務局長会議(如水会館)
3月14日(水)／本部合同企業見学会
安全運転中央研修所(ひたちなか市)
福島臨海鉄道小名浜駅(いわき市小名浜)

支　部

●九州支部　3月4日(日)／北九州貨物ターミナルイベント

理事会及び定時社員総会のご案内

●理事会

開催日時／平成24年4月25日[水]15時から
開催場所／如水会館(ペガサス)
東京都千代田区一ツ橋2-1-1
電話03-3261-1101

●定時社員総会

開催日時／平成24年5月28日[月]15時
開催場所／如水会館(スターホール)

MONTHLY かもつ・4月号　第62巻・第4号　2012年（平成24年）4月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／ 公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社・
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部